

交流自治体の

「鉄道」

特集



名寄本線、常磐線、上越線、青梅線…。杉並の交流自治体には色々な線路が通っています。全国それぞれの特色のある路線には色々な電車や機関車が走っていました。そんな線路でかつて活躍した機関車や電車たちが、役目を終えた後も様々な場所で第二の人生を過ごしています。てくてく第3号は交流自治体の「鉄道」特集。日本でここだけ!という車両や楽しい展示に出会いに、お出かけしてみたいはいかがですか?

東京都青梅市勝沼2-155 ●青梅駅から徒歩15分(車で来園は永山公園駐車場を利用) ●開園時間:10:00~17:30(3~10月)、10:00~16:30(11~2月)※最終入園は閉園30分前まで ●入園料:100円(小学生以上) ●休園日:月曜日(祝休日の場合は火曜日)、年末年始 ※開園時でも一部の展示車両はメンテナンスのため見られないことがあります。 ☎0428-22-4678



貴重な車両がずらり!

青梅鉄道公園



本井所長(中央)と職員の方々。車掌さんだった方が多いそうです。そういえば園内放送は駅のアナウンスにどことなく似ている気が

園内にある売店はどことなくKIOSKの雰囲気。新幹線スプーンとフォークが売れ筋一番だそうです



青梅鉄道公園で見られる車両は中面へ!

青梅駅からみえる小高い丘の上、永山公園の一角にあるのは「青梅鉄道公園」。ここには新橋〜横浜間で日本初の鉄道に使われた機関車のうちの1台である110形や、国鉄最後の新製蒸気機関車で、国内最大のE10形などが展示されています。クモハ40形電車は青梅線で活躍していたので、もしかしたら「乗ったことある!」という方もいるのではないでしょうか。

この公園を管理しているのはJRのOBの方々。所長の本井さんは整備士として八王子や東京の支社で働いていたそうです。「僕は蒸気機関車を扱ったことがないから、お客さんの方が詳しく困ることがあるんだよね」と穏やかに答えてくれました。

この公園に保存されている機関車や電車は、実際に運転台に入れる車両が比較的多く、貴重な製造1号機の車両が多いのが特徴。また、色々なドラマや映画の撮影によく使われるそうです。園内には車両展示の他にHOGEEジが走るジオラマやミニSLもあり小さなお子さんでも楽しめます。手ごろな入園料も魅力の一つですのでぜひとも足を運んでみてください。